

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2020-15538
(P2020-15538A)

(43) 公開日 令和2年1月30日(2020.1.30)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/50 (2006.01)	B 6 5 D 5/50 B	3 E 0 3 7
B 6 5 D 85/68 (2006.01)	B 6 5 D 85/68 N	3 E 0 6 0
B 6 5 D 81/05 (2006.01)	B 6 5 D 81/05 1 0 0	3 E 0 6 6

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2018-141068 (P2018-141068) 平成30年7月27日 (2018. 7. 27)	(71) 出願人 000112015 株式会社パロマ 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 (74) 代理人 110000497 特許業務法人グランダム特許事務所 (72) 発明者 佐々 ▲琢▼磨 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 株式会社パロマ内 (72) 発明者 鈴木 浩之 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 株式会社パロマ内 (72) 発明者 佐藤 匠 愛知県名古屋市瑞穂区桃園町6番23号 株式会社パロマ内 Fターム(参考) 3E037 BA03 BB04 BB06 BB07 CA02 最終頁に続く
-----------------------	--	---

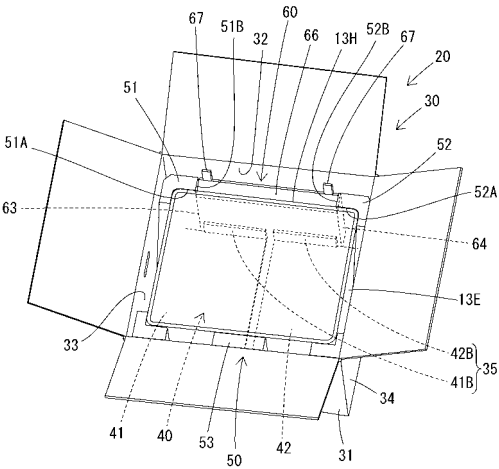
(54) 【発明の名称】 ガスコンロの梱包部材

(57) 【要約】

【課題】 外箱のサイズを抑えつつ同梱部品を同梱し得るガスコンロの梱包部材を提供する。

【解決手段】 ガスコンロ10の梱包部材20は、後壁部13Fが上方側となるにつれて後方側に張り出す構成をなす筐体部13を備えたガスコンロ10を梱包対象とする。梱包部材20は、ガスコンロ10を収容する外箱30と、外箱30と筐体部13との間に配置され、筐体部13を支持する緩衝部材50と、ガスコンロ10の同梱部品を収容する内箱60と、を備えている。外箱30は、前壁部31、後壁部32、及び底壁部40と一体的に設けられる支持部35を有する。内箱60は、正規の収容状態で収容された筐体部13の後壁部13Fと後壁部32との間に収容され、且つ、支持部35と後壁部32とによって自立状態で挟持される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定の前後方向において互いに対向する前面部及び背面部を備えるとともに前記背面部が上方側となるにつれて後方側に張り出す構成をなす筐体部を備えたガスコンロを梱包対象とし、前記ガスコンロを内部に収容する梱包部材であって、

前記ガスコンロを収容する外箱と、

前記筐体部が前記外箱内において正規の収容状態で収容されたときに、前記外箱と前記筐体部との間に配置され、前記筐体部を支持する緩衝部材と、

前記ガスコンロの同梱部品を収容する内箱と、

を備え、

10

前記外箱は、

前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記前面部に対向する前壁部と、

前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記背面部に対向する後壁部と、

前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の一方の側面部に対向する第 1 側壁部と、

前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の他方の側面部に対向する第 2 側壁部と、

前記正規の収容状態で収容された前記筐体部を下方側から支える底壁部と、

前記前壁部、前記後壁部、及び前記底壁部と一体的に設けられる支持部と、

を有し、

前記内箱は、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記背面部と前記後壁部との間に収容され、且つ、前記支持部と前記後壁部とによって自立状態で挟持されるガスコンロの梱包部材。

20

【請求項 2】

前記外箱は、

前記第 1 側壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 1 フラップと、

前記第 2 側壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 2 フラップと、

前記前壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 3 フラップと、

前記後壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 4 フラップと、

を有し、

前記第 1 フラップ、前記第 2 フラップ、前記第 3 フラップ、及び前記第 4 フラップによって前記底壁部が構成され、前記第 1 フラップ及び前記第 2 フラップが、前記第 3 フラップ及び前記第 4 フラップの上側に配置され、

30

前記第 1 フラップは、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部を下方側から支持する第 1 板状部を具備し、

前記第 2 フラップは、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部を下方側から支持する第 2 板状部を具備し、

前記第 1 フラップ又は前記第 2 フラップの少なくともいずれかの前記後壁部寄りの位置には、前記第 1 板状部又は前記第 2 板状部の少なくともいずれかから上方側に折り返される折り返し部が形成され、

前記折り返し部が前記支持部として構成される

請求項 1 に記載のガスコンロの梱包部材。

40

【請求項 3】

前記緩衝部材は、

前記外箱内において前記第 1 側壁部側且つ前記後壁部側に配置される第 1 緩衝部と、

前記外側内において前記第 2 側壁部側且つ前記前壁部側に配置される第 2 緩衝部と、

を有し、

前記内箱は、

所定の第 1 方向において互いに対向するように設けられた第 1 外面部及び第 2 外面部と

、

前記第 1 方向と直交する第 2 方向において互いに対向するように設けられた第 3 外面部及び第 4 外面部と、

50

を有し、

自身の配置が前記外箱内において所定の正規配置であり且つ前記筐体部が前記正規の収容状態で収容されたときに、前記第 1 外面部及び前記第 2 外面部が前記支持部及び前記後壁部によってそれぞれ支持される形態で挟持され、前記第 3 外面部及び前記第 4 外面部が前記第 1 緩衝部及び前記第 2 緩衝部によってそれぞれ支持される形態で挟持される請求項 1 又は請求項 2 に記載のガスコンロの梱包部材。

【請求項 4】

前記筐体部は、前記背面部の上端側から後方側に張り出す張出部を有し、

前記内箱は、

所定の第 1 方向において互いに対向するように設けられた第 1 外面部及び第 2 外面部と

10

、

前記第 1 外面部及び前記第 2 外面部と一体的に設けられる上面部と、

を有し、

自身の配置が前記外箱内において所定の正規配置であり且つ前記筐体部が前記正規の収容状態で収容されたときに、前記上面部が前記張出部の下方に位置するように収容される請求項 1 から請求項 3 のいずれか一項に記載のガスコンロの梱包部材。

【請求項 5】

前記内箱は、前記上面部よりも上方側に延出する延出部を有し、

前記内箱は、

自身の配置が前記正規配置であり且つ前記筐体部が前記正規の収容状態で収容されたときに、前記第 1 外面部が前記支持部に支持され、前記第 2 外面部が前記後壁部に支持され、前記延出部が前記張出部と前記後壁部との間に配置されるとともに前記延出部の上端が前記張出部よりも上方に位置し、

20

自身の配置が、前記第 2 外面部が前記支持部に支持され且つ前記第 1 外面部が前記後壁部に支持される異常配置である場合に、前記筐体部が前記正規の収容状態で収容されるときの前記張出部の位置に前記延出部が配置される

請求項 4 に記載のガスコンロの梱包部材。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

30

本発明は、ガスコンロの梱包部材に関するものである。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、ガスコンロを梱包する梱包構造が開示されている。この梱包構造は、ガスコンロを収納する上方が開放された外箱を備えている。この外箱は、コンロ本体、及びコンロ天板とともに各種緩衝部材が同梱可能な大きさであり、段ボール紙製の矩形箱体である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

40

【特許文献 1】特開 2016-88539 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

近年、ガスコンロのオプション品として、コンロ使用時に用いる調理容器などが提供されている。このような調理容器などを付属品としてコンロに付属させようとした場合、外箱にコンロと同梱させる必要がある。しかしながら、特許文献 1 の梱包構造では、外箱とコンロとの間に各種緩衝部材などが配置されており、新たに付属品を収容するスペースを確保することが難しい。そのため、外箱は、容積を増加させるようにサイズを大きくする必要がある。このように外箱のサイズが大型化すると、外箱が持ち難くなり、外箱の材料費

50

の増加、及び輸送費の増加などの問題も生じ易い。

【0005】

本発明は、上述した課題の少なくとも1つを解決するためになされたものであり、外箱のサイズを抑えつつ同梱部品を同梱し得るガスコンロの梱包部材を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明のガスコンロの梱包部材は、所定の前後方向において互いに対向する前面部及び背面部を備えるとともに前記背面部が上方側となるにつれて後方側に張り出す構成をなす筐体部を備えたガスコンロを梱包対象とし、前記ガスコンロを内部に収容する梱包部材であって、前記ガスコンロを収容する外箱と、前記筐体部が前記外箱内において正規の収容状態で収容されたときに、前記外箱と前記筐体部との間に配置され、前記筐体部を支持する緩衝部材と、前記ガスコンロの同梱部品を収容する内箱と、を備え、前記外箱は、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記前面部と対向する前壁部と、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記背面部に対向する後壁部と、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の一方の側面部に対向する第1側壁部と、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の他方の側面部に対向する第2側壁部と、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部を下方側から支える底壁部と、前記前壁部、前記後壁部、及び前記底壁部と一体的に設けられる支持部と、を有し、前記内箱は、前記正規の収容状態で収容された前記筐体部の前記背面部と前記後壁部との間に収容され、且つ、前記支持部と前記後壁部とによって自立状態で挟持される。

【発明の効果】

【0007】

上記ガスコンロの梱包部材は、外箱が、前壁部、後壁部、及び底壁部と一体的に設けられる支持部を有している。そして、内箱は、外箱内において、正規の収容状態で収容されたガスコンロの後方側で、支持部と後壁部とによって自立状態で挟持される構成をなす。このように、外箱の一部をなす一体的な支持部及び後壁部によって内箱を後壁部に近い位置に安定的に自立させておくことができるため、ユーザが外箱内で作業（例えば、筐体部等の収容作業など）を行う際に内箱が邪魔になりにくく、しかも、内箱を後壁部側に確実に寄せて配置することができるため、筐体部の背面部と後壁部との間にそれほど大きな空きスペースを確保しなくても、それら背面部及び後壁部の間を有効に利用して内箱を配置することができる。よって、内箱の配置スペースを確保することに起因する外箱の大型化を確実に抑えることができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】図1は、実施例1の外箱に内箱、緩衝部材、及び筐体部を収容した状態を例示する斜視図である。

【図2】図2は、実施例1のガスコンロの装置本体の一部を例示する斜視図である。

【図3】図3は、実施例1のガスコンロを例示する背面図である。

【図4】図4は、実施例1の外箱を例示する斜視図である。

【図5】図5は、図4の外箱の平面図である。

【図6】図6は、図5のA-A断面を示す断面図である。

【図7】図7は、実施例1の内箱を例示する斜視図である。

【図8】図8は、図7の内箱の左側面図である。

【図9】図9は、実施例1の外箱に内箱を正規配置で配置した状態を例示する斜視図である。

【図10】図10は、実施例1の外箱に内箱を正規配置で配置された状態を例示する側断面図である。

【図11】図11は、実施例1の梱包部材に、内箱を正規配置で配し、筐体部を正規の収容状態で収容した状態を例示する側断面図である。

【図 1 2】図 1 2 は、実施例 1 の梱包部材に、内箱を異常配置で配し、筐体部を正規の収容状態で収容しようとした状態を例示する側断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

本発明の望ましい例を以下に示す。但し、本発明は、以下の例に限定されない。

外箱は、第 1 側壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 1 フラップと、第 2 側壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 2 フラップと、前壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 3 フラップと、後壁部の下端側から内側に折り曲げられる第 4 フラップと、を有していてもよい。第 1 フラップ、第 2 フラップ、第 3 フラップ、及び第 4 フラップによって底壁部が構成され、第 1 フラップ及び第 2 フラップが、第 3 フラップ及び第 4 フラップの上側に配置されていてもよい。第 1 フラップは、正規の収容状態で収容された筐体部を下方側から支持する第 1 板状部を具備し、第 2 フラップは、正規の収容状態で収容された筐体部を下方側から支持する第 2 板状部を具備し、第 1 フラップ又は第 2 フラップの少なくともいずれかの後壁部寄りの位置には、第 1 板状部又は第 2 板状部の少なくともいずれかから上方側に折り返される折り返し部が形成されていてもよい。折り返し部が支持部として構成されていてもよい。このように、第 1 フラップ又は第 2 フラップの少なくともいずれかを上方側に折り返して折り返し部を形成するという構成を特徴として、第 1 板状部及び第 2 板状部で正規の収容状態で収容された筐体部を下方側から支持しつつ、内箱を自立状態で支持する支持部を形成することができる。したがって、支持部を簡易に形成することができる。

【0010】

緩衝部材は、外箱内において第 1 側壁部側且つ後壁部側に配置される第 1 緩衝部と、外側内において第 2 側壁部側且つ前壁部側に配置される第 2 緩衝部と、を有していてもよい。内箱は、所定の第 1 方向において互いに対向するように設けられた第 1 外面部及び第 2 外面部と、第 1 方向と直交する第 2 方向において互いに対向するように設けられた第 3 外面部及び第 4 外面部と、を有し、自身の配置が外箱内において所定の正規配置であり且つ筐体部が正規の収容状態で収容されたときに、第 1 外面部及び第 2 外面部が支持部及び後壁部によってそれぞれ支持される形態で挟持され、第 3 外面部及び第 4 外面部が第 1 緩衝部及び第 2 緩衝部によってそれぞれ支持される形態で挟持されてもよい。このように、内箱は、第 1 外面部及び第 2 外面部が支持部及び後壁部によってそれぞれ支持される形態で挟持され、第 3 外面部及び第 4 外面部が第 1 緩衝部及び第 2 緩衝部によってそれぞれ支持される形態で挟持されるため、外箱内において所定の正規配置でより一層安定して配置させることができる。

【0011】

筐体部は、背面部の上端側から後方側に張り出す張出部を有していてもよい。内箱は、所定の第 1 方向において互いに対向するように設けられた第 1 外面部及び第 2 外面部と、第 1 外面部及び第 2 外面部と一体的に設けられる上面部と、を有し、自身の配置が外箱内において所定の正規配置であり且つ筐体部が正規の収容状態で収容されたときに、上面部が張出部の下方に位置するように収容されてもよい。このように、内箱は、自身の配置が外箱内において所定の正規配置であり且つ筐体部が正規の収容状態で収容されたときに、上面部が張出部の下方に位置するように収容されるため、外箱内に内箱を配置した後に筐体部を配置する際に、張出部が上面部に干渉することがない。そのため、筐体部を外箱内に正規の収容状態で支障なく収容させることができ、梱包部材の輸送時の振動などによって、上面部と張出部とが接触して内箱が変形することを防ぐことができる。

【0012】

内箱は、上面部よりも上方側に延出する延出部を有していてもよい。内箱は、自身の配置が正規配置であり且つ筐体部が正規の収容状態で収容されたときに、第 1 外面部が支持部に支持され、第 2 外面部が後壁部に支持され、延出部が張出部と後壁部との間に配置されるとともに延出部の上端が張出部よりも上方に位置し、自身の配置が、第 2 外面部が支持部に支持され且つ第 1 外面部が後壁部に支持される異常配置である場合に、筐体部が正

規の収容状態で収容されるときに張出部の位置に延出部が配置されてもよい。このように、内箱は、自身の配置が正規配置であり且つ筐体部が正規の収容状態で収容されたときには、延出部が張出部と後壁部との間に配置されるとともに延出部の上端が張出部よりも上方に位置するため、張出部が延出部に干渉することがない。そのため、外箱内に内箱を正規配置で配置した後に、筐体部を正規の収容状態で支障なく収容させることができる。一方で、内箱は、自身の配置が、第2外面部が支持部に支持され且つ第1外面部が後壁部に支持されるような異常配置である場合には、筐体部が正規の収容状態で収容されるときに張出部の位置に延出部が配置されるため、張出部が延出部に干渉することになる。そのため、外箱内に内箱を異常配置で配置した後に、筐体部を正規の収容状態で収容しようとすると、張出部が延出部に干渉して適切に配置できないことから、内箱を異常配置で配置したことを把握することができる。

10

【0013】

＜実施例1＞ 以下、本発明を具現化した実施例1について、図面を参照して説明する。図1に示すように、ガスコンロ10の梱包部材20は、ガスコンロ10を内部に収容して梱包する部材である。ガスコンロ10は、梱包部材20によって梱包された状態で、搬送や保管がなされる。そして、梱包部材20は、ガスコンロ10に対する外部からの衝撃を吸収するように機能する。ガスコンロ10は、以下ではビルトインタイプのグリル付きガスコンロである例を示すが、テーブルコンロ等であってもよい。

【0014】

（ガスコンロの構成） 図2、図3を参照し、ガスコンロ10について説明する。本明細書では、ガスコンロ10が平坦な載置面に載置されたときの載置面と直交する方向が、ガスコンロ10においての上下方向である。また、上下方向と直交する方向のうち左側壁部13Dと右側壁部13Eとが向かい合う方向が、ガスコンロ10においての左右方向であり、上下方向及び左右方向と直交する方向が、ガスコンロ10においての前後方向である。ガスコンロ10では、図3のように背面視したときの長手方向が左右方向であり、短手方向が上下方向である。

20

【0015】

図2、図3で示すガスコンロ10（図2では、一部を図示）は、例えばビルトインコンロとして構成され、天板部11（図3参照）と、装置本体12と、を備え、装置本体12の上端部に天板部11が固定された構成をなす。図2は、装置本体12から天板部11、左側壁部13D（図3参照）、及び前パネルを取り外した状態の外観を示すものである。装置本体12は、ガスコンロ10から天板部11及び天板部11に対する取付物（五徳19など）を取り外した残りの部分を指す。装置本体12は、図2に示すように、外殻を構成する筐体部13、右側バーナ14、中央バーナ15、左側バーナ16、ガス供給装置15A、16A（右側のガス供給装置は図示略）、グリル庫17、排気路18などを備える。

30

【0016】

筐体部13は、例えば金属材料によって構成され、上端部が開口する略直方体状に構成されている。筐体部13は、ガスコンロ10の外殻をなすとともにガスバーナ（右側バーナ14、中央バーナ15、左側バーナ16等）などを収容するケースとして機能する部分である。筐体部13は、主に、筐体本体部13A、梁部材13B、13C、前パネル（図示略）などを備えた構成をなし、上端側が開放した箱状形態をなす。図2のように、筐体本体部13Aは、ガスコンロ10の左右両側に配置される一対の側壁部（左側壁部13D（図3参照）、右側壁部13E）と、後端側に配置される後壁部13Fと、下面側に配置される底壁部13Gと、張出部13Hと、を備える。図3のように、筐体本体部13Aは、一対の側壁部13D、13E、後壁部13F、底壁部13Gが互いに連結されており、上端側及び前端側が開放した箱状形態をなす。後壁部13Fは、筐体部13の背面部として機能する部分である。後壁部13Fは、上方側となるにつれて後方側に張り出す構成である。すなわち、後壁部13Fは、底壁部13Gに対して、後方に向かうにつれて高位置となるように傾斜している。筐体本体部13Aの一対の側壁部13D、13Eの間には、

40

50

ガスバーナ（右側バーナ１４、中央バーナ１５、左側バーナ１６等）、グリル庫１７、排気路１８などの各種部品が収容される。

【００１７】

張出部１３Ｈは、図２に示すように、後壁部１３Ｆの上端側から後方側に向かって、略水平となるように張り出している。張出部１３Ｈは、後側の角部が丸みを帯びた板状であり、左右方向における幅が後壁部１３Ｆの幅と略同じである。

【００１８】

前パネル（図示略）は、筐体部１３の前面部として機能する部分である。図２の例では、筐体本体部１３Ａの左右両側に前パネルがそれぞれ装着され、２つの前パネルの間には、グリル庫１７のグリル扉１７Ａが開閉可能に装着されている。前パネルは、後壁部１３

10

【００１９】

天板部１１の板面には、３つの円形状の開口部（図示略）が形成され、図３に示すように、これらの開口部にそれぞれ挿入される形態で右側バーナ１４、中央バーナ１５、左側バーナ１６が上方側に向けて突出して配置されている。右側バーナ１４、中央バーナ１５、左側バーナ１６の各周囲には、五徳１９が夫々設置されている。ガスコンロ１０の使用時には、五徳１９の各上部にフライパン、鍋等の調理容器（図示略）が載置される。

【００２０】

（梱包部材の構成） 図４～図８等を参照し、梱包部材２０について説明する。梱包部材２０は、外箱３０、緩衝部材５０、内箱６０、付属品パッド７０、トップパッド８０

20

【００２１】

本明細書では、外箱３０が平坦な載置面に載置されたときの載置面と直交する方向が、梱包部材２０においての上下方向である。また、上下方向と直交する方向のうち左壁部３３と右壁部３４が向かい合う方向が、梱包部材２０においての左右方向であり、上下方向及び左右方向と直交する方向が、梱包部材２０においての前後方向である。外箱３０では、図６のように側断面を見たときの長手方向が前後方向となっており、短手方向が上下方向となっている。

【００２２】

外箱３０は、図４～図６に示すように、ガスコンロ１０よりもひとまわり大きな、段ボール紙製の直方体形状の箱である。外箱３０は、例えば、段ボール紙製の板部材を展開状態に切り抜いた後に、曲げ加工等して成形された単一部品である。外箱３０は、前壁部３１と、後壁部３２と、左壁部（第１側壁部）３３と、右壁部（第２側壁部）３４と、底壁部４０と、上壁部３６と、を有している。前壁部３１、後壁部３２、左壁部３３、右壁部３４、底壁部４０、及び上壁部３６は、一体的に形成されている。

30

【００２３】

前壁部３１及び後壁部３２は、長方形の板状であり、前後方向で互いに対向している。左壁部３３及び右壁部３４は、長方形の板状であり、左右方向で互いに対向している。底壁部４０は、図４、図５に示すように、第１フラップ４１、第２フラップ４２、第３フラップ４３、第４フラップ４４を有している。第１フラップ４１は、略長方形の板状であり、左壁部３３の下端側から内側に折り曲げられている。第２フラップ４２は、略長方形の板状であり、右壁部３４の下端側から内側に折り曲げられている。第３フラップ４３は、略長方形の板状であり、前壁部３１の下端側から内側に折り曲げられている。第４フラップ４４は、略長方形の板状であり、後壁部３２の下端側から内側に折り曲げられている。第１フラップ４１及び第２フラップ４２が、第３フラップ４３及び第４フラップ４４の上側に配置され、底壁部４０が構成されている。

40

【００２４】

第１フラップ４１は、図４～図６に示すように、第１板状部４１Ａと、折り返し部４１Ｂと、を具備している。第１板状部４１Ａは、図４、図５に示すように、後端部における右側部分が切り欠かれた長方形の板部である。折り返し部４１Ｂは、第１板状部４１Ａ

50

の後壁部 3 2 寄りの位置（後端部における右側部分）において上方側に折り返されている。具体的には、折り返し部 4 1 B は、第 1 フラップ 4 1 において、後端部における左側寄りの位置で前後方向に切り込みが入れられ、左右方向に延びる折り目に沿って、上方側に折り返されている。第 2 フラップ 4 2 は、図 4、図 5 に示すように、第 2 板状部 4 2 A と、折り返し部 4 2 B と、を具備している。第 2 板状部 4 2 A は、図 4、図 5 に示すように、後端部における左側部分が切り欠かれた長形状の板部である。折り返し部 4 2 B は、第 2 板状部 4 2 A の後壁部 3 2 寄りの位置（後端部における左側部分）において上方側に折り返されている。具体的には、折り返し部 4 2 B は、第 2 フラップ 4 2 において、後端部における右側寄りの位置で前後方向に切り込みが入れられ、左右方向に延びる折り目に沿って、上方側に折り返されている。

10

【0025】

折り返し部 4 1 B、4 2 B によって、後述する内箱 6 0 を支持する支持部 3 5 が構成されている。支持部 3 5 は、前壁部 3 1、後壁部 3 2、及び底壁部 4 0 と一体的に形成されている。そのため、支持部 3 5 は、前壁部 3 1 及び後壁部 3 2 との前後方向における距離が一定に保たれる。

【0026】

上壁部 3 6 は、図 4、図 5 に示すように、第 1 フラップ 3 6 A と、第 2 フラップ 3 6 B と、第 3 フラップ 3 6 C と、第 4 フラップ 3 6 D と、を有している。第 1 フラップ 3 6 A は、略長方形の板状であり、左壁部 3 3 の上端側から内側に折り曲げ可能になっている。第 2 フラップ 3 6 B は、略長方形の板状であり、右壁部 3 4 の上端側から内側に折り曲げ可能になっている。第 3 フラップ 3 6 C は、略長方形の板状であり、前壁部 3 1 の上端側から内側に折り曲げ可能になっている。第 4 フラップ 3 6 D は、略長方形の板状であり、後壁部 3 2 の上端側から内側に折り曲げ可能になっている。例えば、第 1 フラップ 3 6 A 及び第 2 フラップ 3 6 B が、第 3 フラップ 4 3 及び第 4 フラップ 4 4 の下側に配置されるように、各フラップ 3 6 A ～ 3 6 D を重ね合わせることで、上壁部 3 6 によって外箱 3 0 の上方側の開口部が閉塞される。

20

【0027】

緩衝部材 5 0 は、図 1 に示すように、外箱 3 0 と筐体部 1 3 との間に配置され、筐体部 1 3 を支持するように機能する。緩衝部材 5 0 は、図 1 に示すように、第 1 緩衝部 5 1 と、第 2 緩衝部 5 2 と、第 3 緩衝部 5 3 と、から構成されている。第 1 緩衝部 5 1 は、発泡スチロール製であり、図 1 に示すように、外箱 3 0 内において左壁部 3 3 側且つ底壁部 4 0 側に配置され、筐体部 1 3 の左端部を支持する構成になっている。具体的には、第 1 緩衝部 5 1 は、筐体部 1 3 の左端部が嵌め込まれる凹部 5 1 A と、後述する内箱 6 0 を左側から支持する右端部 5 1 B と、が形成されている。第 2 緩衝部 5 2 は、発泡スチロール製であり、図 1 に示すように、外箱 3 0 内において右壁部 3 4 側且つ底壁部 4 0 側に配置され、筐体部 1 3 の右端部を支持する構成になっている。具体的には、第 2 緩衝部 5 2 は、筐体部 1 3 の右端部が嵌め込まれる凹部 5 2 A と、後述する内箱 6 0 を右側から支持する左端部 5 2 B と、が形成されている。第 3 緩衝部 5 3 は、発泡スチロール製であり、図 1 に示すように、外箱 3 0 内において前壁部 3 1 側に配置され、筐体部 1 3 の前パネルやグリル扉 1 7 A を支持する構成になっている。

30

40

【0028】

内箱 6 0 は、図 7、図 8 に示すように、段ボール紙製の箱であり、外箱 3 0 よりも小さいサイズである。内箱 6 0 は、ガスコンロ 1 0 の同梱部品を収容するように機能する。内箱 6 0 は、同梱部品として、例えば、ガスコンロ 1 0 の使用時に用いる調理容器（グリル庫 1 7 に入れて使用するプレートなど）などを収容する。なお、収容物は、ガスコンロ 1 0 の部品以外の付属物であってもよく、ガスコンロ 1 0 の部品（付属物）であってもよい。内箱 6 0 は、例えば、段ボール紙製の板部材を展開状態に切り抜いた後に、曲げ加工等して成形された単一部品である。内箱 6 0 は、図 7、図 8 に示すように、前面部（第 1 外面部）6 1 と、後面部（第 2 外面部）6 2 と、左面部（第 3 外面部）6 3 と、右面部（第 4 外面部）6 4 と、底面部 6 5 と、上面部 6 6 と、一对の延出部 6 7 と、を備えている。

50

前面部 6 1、後面部 6 2、左面部 6 3、右面部 6 4、底面部 6 5、及び上面部 6 6 は、一体的に形成されている。図 7、図 8 に示すように、前面部 6 1 及び後面部 6 2 は、長方形の板状であり、所定の第 1 方向（図 8 では左右方向）において互いに対向するように設けられている。左面部 6 3 及び右面部 6 4 は、台形の板状であり、第 1 方向と直交する第 2 方向（図 8 では前後方向）において互いに対向するように設けられている。底面部 6 5 は、長方形の板部であり、前面部 6 1、後面部 6 2、左面部 6 3、右面部 6 4 の各下端部に連なっている。上面部 6 6 は、長方形の板部であり、前面部 6 1、後面部 6 2、左面部 6 3、右面部 6 4 の各上端部に連なっている。上面部 6 6 は、前面部 6 1 側から後面部 6 2 側に向かうにつれて底面部 6 5 から離れるように傾斜している。

【0029】

延出部 6 7 は、図 7、図 8 に示すように、帯状の板片である。一对の延出部 6 7 は、それぞれ上面部 6 6 よりも上方側に延出している。延出部 6 7 は、上面部 6 6 と後面部 6 2 の間の角部において、上記第 2 方向（図 8 では前後方向）の両端部付近に設けられている。延出部 6 7 は、上面部 6 6 又は後面部 6 2 にテープなどの接着部材によって固定されていてもよく、上面部 6 6 又は後面部 6 2 と一体的に形成されていてもよい。

【0030】

付属品パッド 7 0 は、図 1 1 に示すように、略直方体状であり、段ボール紙を折り畳んで組み立てられた箱状パッドである。付属品パッド 7 0 は、五徳 1 9 等が組み付けられる。トップパッド 8 0 は、略直方体状であり、段ボール紙を折り畳んで組み立てられた箱状パッドである。トップパッド 8 0 は、天板部 1 1 が組み付けられる。

【0031】

（梱包部材を用いたガスコンロの梱包工程） 図 9～図 1 1 等を参照し、梱包部材 2 0 を用いたガスコンロ 1 0 の梱包工程について説明する。

まず、図 9、図 1 0 に示すように、同梱部品を収容した内箱 6 0 を、所定の正規配置で、外箱 3 0 内において支持部 3 5 と後壁部 3 2 との間に配置する。ここで、正規配置とは、前面部 6 1、後面部 6 2、左面部 6 3、及び右面部 6 4 が、それぞれ前壁部 3 1、後壁部 3 2、左壁部 3 3、及び右壁部 3 4 にそれぞれ対向する状態となる配置である。内箱 6 0 は、支持部 3 5 と後壁部 3 2 とによって自立状態で挟持される。具体的には、内箱 6 0 は、前面部 6 1 及び後面部 6 2 が、支持部 3 5 及び後壁部 3 2 によってそれぞれ支持される形態で挟持される。また、内箱 6 0 は、底面部 6 5 が第 4 フラップ 4 4 によって下方側から支持されている。ここで、内箱 6 0 を配置する前に、支持部 3 5（折り返し部 4 1 B、4 2 B）が自然状態で後方側に倒れるように傾斜した状態とすることで、支持部 3 5 と後壁部 3 2 との間に内箱 6 0 を配置したときに、支持部 3 5 によって内箱 6 0 を後方に押圧して支持することができる。このようにして、内箱 6 0 を、外箱 3 0 内に自立した状態で安定して配置させることができる。

【0032】

続いて、緩衝部材 5 0（第 1 緩衝部 5 1、第 2 緩衝部 5 2、第 3 緩衝部 5 3）を外箱 3 0 内に配置する（図 1、図 1 1 参照）。具体的には、第 1 緩衝部 5 1 を、外箱 3 0 内において左壁部 3 3 側且つ底壁部 4 0 側に配置する。第 2 緩衝部 5 2 を、外箱 3 0 内において右壁部 3 4 側且つ底壁部 4 0 側に配置する。すなわち、第 1 緩衝部 5 1 及び第 2 緩衝部 5 2 を、内箱 6 0 に対して左右両側から挟むように配置する。これにより、内箱 6 0 は、第 1 緩衝部 5 1 及び第 2 緩衝部 5 2 によって支持される形態で挟持される。具体的には、左面部 6 3 が、第 1 緩衝部 5 1 の右端部 5 1 B によって支持され、右面部 6 4 が、第 2 緩衝部 5 2 の左端部 5 2 B によって支持される。また、第 3 緩衝部 5 3 を、外箱 3 0 内において前壁部 3 1 側に配置する。

【0033】

続いて、筐体部 1 3 を、図 1、図 1 1 に示すように、外箱 3 0 内に正規の収容状態で収容する。ここで、正規の収容状態とは、前パネル（図示略）、後壁部 1 3 F、左側壁部 1 3 D、右側壁部 1 3 E が、それぞれ前壁部 3 1、後壁部 3 2、左壁部 3 3、及び右壁部 3 4 にそれぞれ対向する状態となる収容状態である。正規の収容状態では、筐体部 1 3（具

10

20

30

40

50

体的には、底壁部 1 3 G) は、底壁部 4 0 (具体的には、第 1 板状部 4 1 A、第 2 板状部 4 2 A) によって緩衝部材 5 0 を介して下方側から支えられる。内箱 6 0 は、支持部 3 5 と後壁部 3 2 とによって自立状態で挟持された状態で、筐体部 1 3 の後壁部 1 3 F と後壁部 3 2 との間に収容される。このように、内箱 6 0 を筐体部 1 3 と後壁部 3 2 との間に生じる空きスペースを利用して配置させることができるため、外箱 3 0 は、内箱 6 0 を配置する空間を新たに内側に設けるためにサイズを大きくする必要がない。ゆえに、梱包部材 2 0 は、外箱 3 0 のサイズを大きくすることなく、ガスコンロ 1 0 に同梱部品を同梱しうる。

【0034】

内箱 6 0 は、図 1 1 に示すように、自身の配置が外箱 3 0 内において所定の正規配置であり且つ筐体部 1 3 が正規の収容状態で収容されたときに、上面部 6 6 が張出部 1 3 H の下方に位置するように収容される。そのため、外箱 3 0 内に内箱 6 0 を配置した後に筐体部 1 3 を配置する際に、張出部 1 3 H が上面部 6 6 に干渉することがない。そのため、筐体部 1 3 を外箱 3 0 内に正規の収容状態で支障なく収容させることができ、梱包部材 2 0 の輸送時の振動などによって、上面部 6 6 と張出部 1 3 H とが接触して内箱 6 0 が変形することを防ぐことができる。

【0035】

内箱 6 0 は、自身の配置が正規配置であり且つ筐体部 1 3 が正規の収容状態で収容されたときに、図 1 1 に示すように、一对の延出部 6 7 が張出部 1 3 H と後壁部 3 2 との間に配置されるとともに、一对の延出部 6 7 の上端が張出部 1 3 H よりも上方に位置する。そのため、張出部 1 3 H が一对の延出部 6 7 に干渉しない。ゆえに、外箱 3 0 内に内箱 6 0 を正規配置で配置した後に、筐体部 1 3 を正規の収容状態で支障なく収容させうる。

【0036】

筐体部 1 3 を外箱 3 0 内に正規の収容状態で収容した後、図 1 1 に示すように、外箱 3 0 内に付属品パッド 7 0 及びトップパッド 8 0 を収容する。付属品パッド 7 0 は、五徳 1 9 等が組み付けられており、筐体部 1 3 上に載置される。トップパッド 8 0 は、天板部 1 1 が組み付けられており、付属品パッド 7 0 上に載置される。その後、上壁部 3 6 で筐体部 1 3 の上方側の開口部を閉塞することで、ガスコンロ 1 0 の梱包が完了する。

【0037】

一方で、内箱 6 0 の配置が異常配置である場合に、筐体部 1 3 を正規の収容状態で収容しようとしたとき、内箱 6 0 を異常配置で配置したことを検知することができる。ここで、内箱 6 0 の異常配置とは、正規配置に対して前後が逆となる配置（後面部 6 2 が支持部 3 5 に支持され且つ前面部 6 1 が後壁部 3 2 に支持される配置）である。内箱 6 0 の配置が異常配置である場合、筐体部 1 3 が正規の収容状態で収容されるときに張出部 1 3 H の位置に一对の延出部 6 7 が配置されることになる。そのため、張出部 1 3 H が一对の延出部 6 7 に干渉することになる。したがって、外箱 3 0 内に内箱 6 0 を異常配置で配置した後に、筐体部 1 3 を正規の収容状態で収容しようすると、張出部 1 3 H が一对の延出部 6 7 に干渉して適切に配置できないことから、内箱 6 0 を異常配置で配置したことを把握することができる。これにより、内箱 6 0 の誤配置を防ぐことができる。

【0038】

以下、本構成の効果を例示する。本構成では、内箱 6 0 は、一体的に設けられる支持部 3 5 と後壁部 3 2 とによって、外箱 3 0 内の後壁部 3 2 に近い位置に安定した自立状態で配置されることになる。そのため、内箱 6 0 が意図しない姿勢で外箱 3 0 内に配置されることがなく、内箱 6 0 を外箱 3 0 内に想定した姿勢で配置した後に、ガスコンロ 1 0 の配置などの梱包作業を行い易くなる。特に、内箱 6 0 は、外箱 3 0 内において、正規の収容状態で収容されたガスコンロ 1 0 の後方側で、後壁部 3 2 によって支持される構成である。そのため、内箱 6 0 は、筐体部 1 3 の後壁部 1 3 F と後壁部 3 2 との間の空きスペースのうち、特に外箱 3 0 内の後壁部 3 2 に近い位置に生じる空きスペースを利用して配置させることができる。そのため、外箱 3 0 は、内箱 6 0 を配置する空間を新たに内側に設けるためにサイズを大きくする必要がない。したがって、梱包部材 2 0 は、外箱 3 0 の

サイズを大きくすることなく、ガスコンロ 10 に同梱部品を同梱することができる。

【0039】

また、本構成では、第 1 フラップ 41 及び第 2 フラップ 42 をそれぞれ上方側に折り返して折り返し部 41B, 42B を形成するという構成を特徴として、第 1 板状部 41A 及び第 2 板状部 42A で正規の収容状態で収容された筐体部 13 を下方側から支持しつつ、内箱 60 を自立状態で支持する支持部 35 を形成することができる。したがって、支持部 35 を簡易に形成することができる。

【0040】

また、本構成では、内箱 60 は、前面部 61 及び後面部 62 が支持部 35 及び後壁部 32 によってそれぞれ支持される形態で挟持され、左面部 63 及び右面部 64 が第 1 緩衝部 51 及び第 2 緩衝部 52 によってそれぞれ支持される形態で挟持されるため、外箱 30 内において所定の正規配置でより一層安定して配置させることができる。

【0041】

また、内箱 60 は、自身の配置が外箱 30 内において所定の正規配置であり且つ筐体部 13 が正規の収容状態で収容されたときに、上面部 66 が張出部 13H の下方に位置するように収容されるため、外箱 30 内に内箱 60 を配置した後に筐体部 13 を配置する際に、張出部 13H が上面部 66 に干渉しない。そのため、筐体部 13 を外箱 30 内に正規の収容状態で支障なく収容させることができ、梱包部材 20 の輸送時の振動などによって、上面部 66 と張出部 13H とが接触して内箱 60 が変形することを防ぐことができる。

【0042】

また、内箱 60 は、自身の配置が正規配置であり且つ筐体部 13 が正規の収容状態で収容されたときには、延出部 67 が張出部 13H と後壁部 32 との間に配置されるときにも延出部 67 の上端が張出部 13H よりも上方に位置するため、張出部 13H が延出部 67 に干渉することがない。そのため、外箱 30 内に内箱 60 を正規配置で配置した後に、筐体部 13 を正規の収容状態で支障なく収容させることができる。一方で、内箱 60 は、自身の配置が、後面部 62 が支持部 35 に支持され且つ前面部 61 が後壁部 32 に支持されるような異常配置である場合には、筐体部 13 が正規の収容状態で収容されるときに張出部 13H の位置に延出部 67 が配置されるため、張出部 13H が延出部 67 に干渉することになる。そのため、外箱 30 内に内箱 60 を異常配置で配置した後に、筐体部 13 を正規の収容状態で収容しようとする、張出部 13H が延出部 67 に干渉して適切に配置できないことから、内箱 60 を異常配置で配置したことを把握することができる。

【0043】

<他の実施例> 本発明は上記記述及び図面によって説明した実施例に限定されるものではなく、例えば次のような例も本発明の技術的範囲に含まれる。また、上述した実施例や後述する実施例の特徴は矛盾しない範囲でどのように組み合わせてもよい。

【0044】

実施例 1 では、内箱 60 に一对の延出部 67 が設けられる構成であったが、延出部 67 の数や形成箇所はこれに限定されない。例えば、延出部 67 の数が 1 つまたは 3 つ以上であってもよく、上面部 66 の任意の箇所から上方に延出する構成であってもよい。

実施例 1 では、内箱 60 の上面部 66 が底面部 65 に対して傾斜する構成であったが、傾斜していない構成であってもよい。すなわち、内箱 60 の上面部 66 が底面部 65 に対して平行であってもよい。

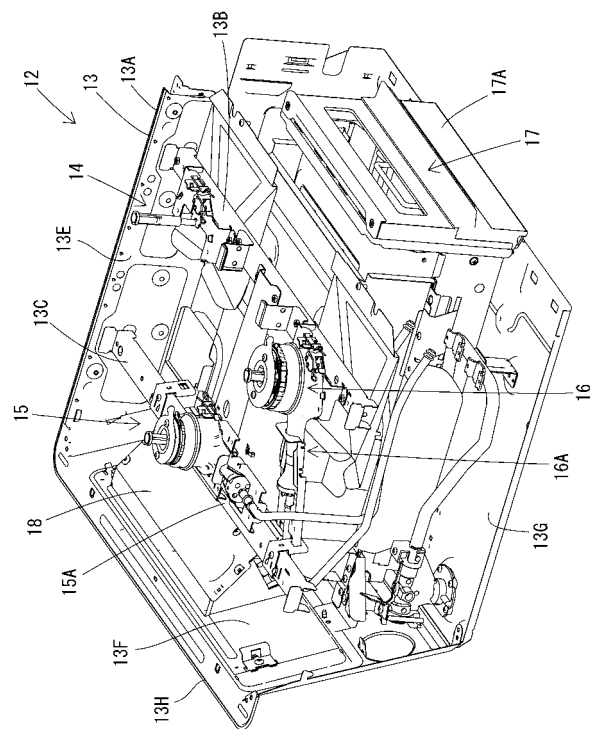
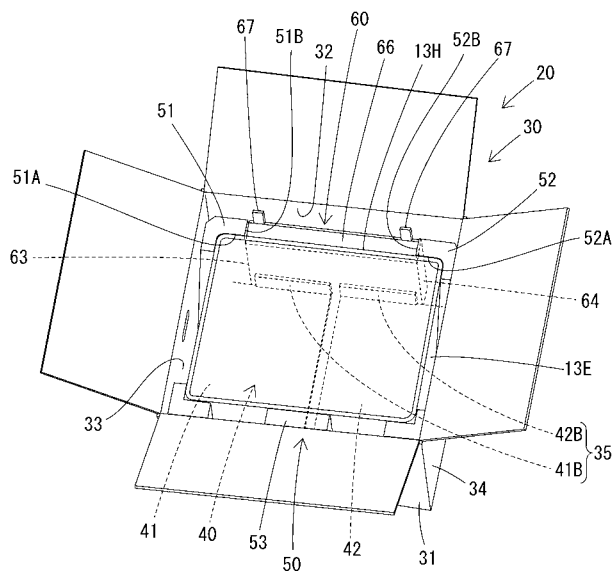
実施例 1 では、緩衝部材 50 が 3 つの緩衝部（第 1 緩衝部 51、第 2 緩衝部 52、第 3 緩衝部 53）を備える構成であったが、これら以外の緩衝部を設けてもよい。また、各緩衝部は、柔軟性を有する部材であれば、発泡スチロール以外で構成されてもよい。例えば、所定形状に形成された段ボールを採用してもよい。

実施例 1 のガスコンロ 10 の梱包部材 20 は、第 1 フラップ 41 及び第 2 フラップ 42 にそれぞれ折り返し部 41B, 42B が形成される構成であったが、第 1 フラップ 41 及び第 2 フラップ 42 のいずれか一方に折り返し部が形成される構成であってもよい。

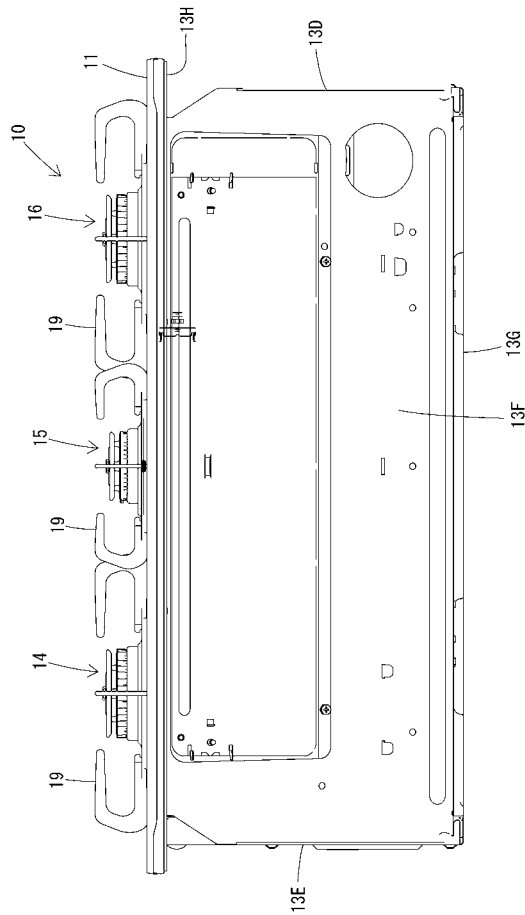
【符号の説明】

1 0 …ガスコンロ、1 3 …筐体部、1 3 D …左側壁部（側面部）、1 3 E …右側壁部（側面部）、1 3 F …後壁部（背面部）、1 3 H …張出部、2 0 …梱包部材、3 0 …外箱、3 1 …前壁部、3 2 …後壁部、3 3 …左壁部（第1側壁部）、3 4 …右壁部（第2側壁部）、3 5 …支持部、4 0 …底壁部、4 1 …第1フラップ、4 1 A …第1板状部、4 1 B、4 2 B …折り返し部、4 2 …第2フラップ、4 2 A …第2板状部、4 3 …第3フラップ、4 4 …第4フラップ、5 0 …緩衝部材、5 1 …第1緩衝部、5 2 …第2緩衝部、6 0 …内箱、6 1 …前面部（第1外面部）、6 2 …後面部（第2外面部）、6 3 …左面部（第3外面部）、6 4 …右面部（第4外面部）、6 6 …上面部、6 7 …延出部

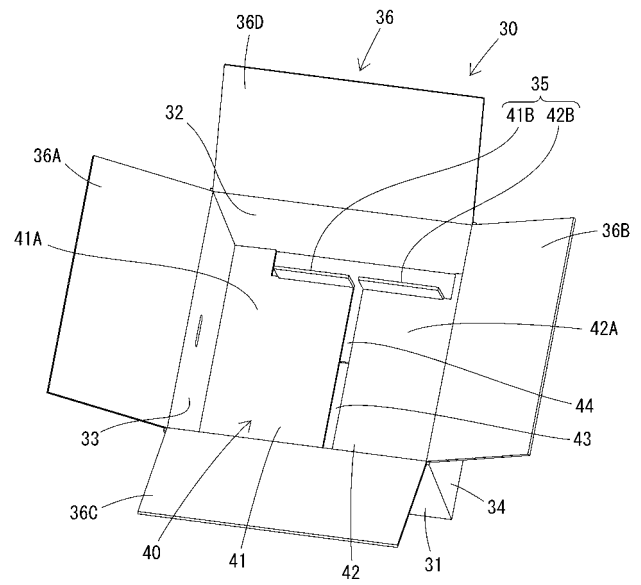
【図 2】



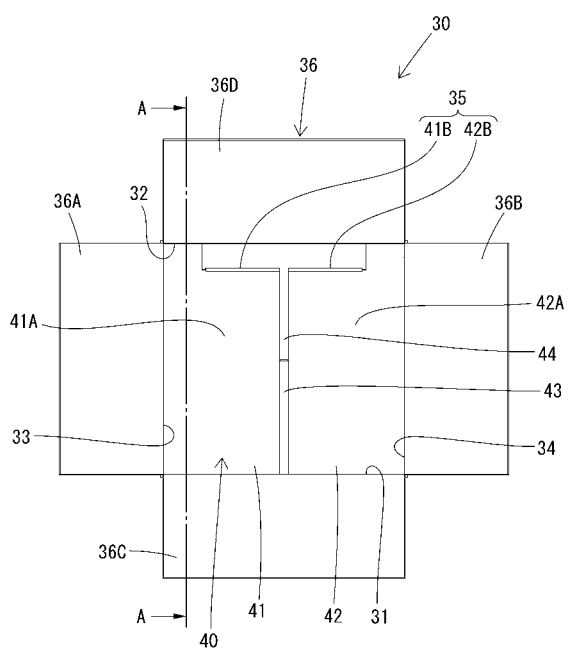
【図 3】



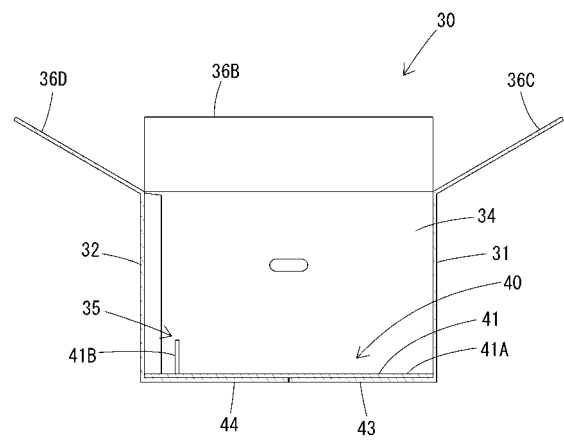
【図 4】



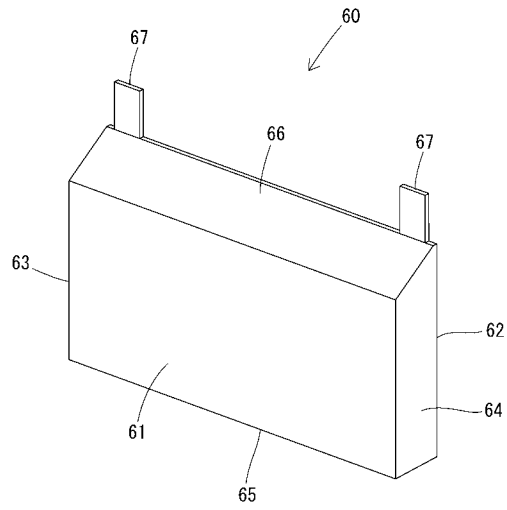
【図 5】



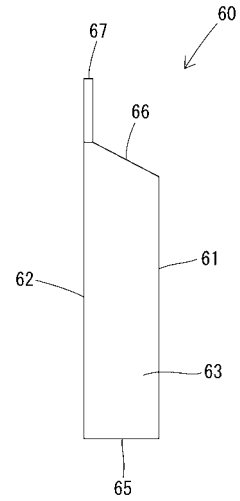
【図 6】



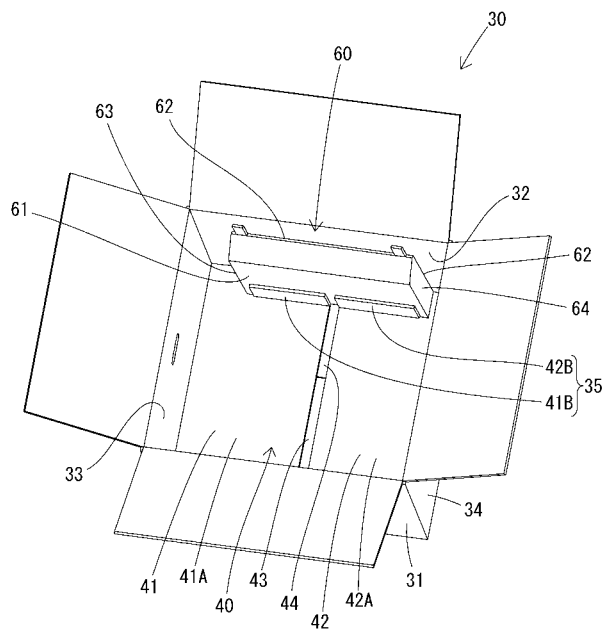
【図 7】



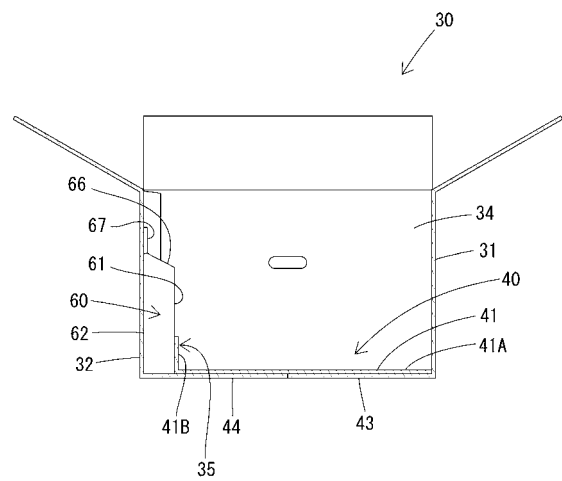
【図 8】



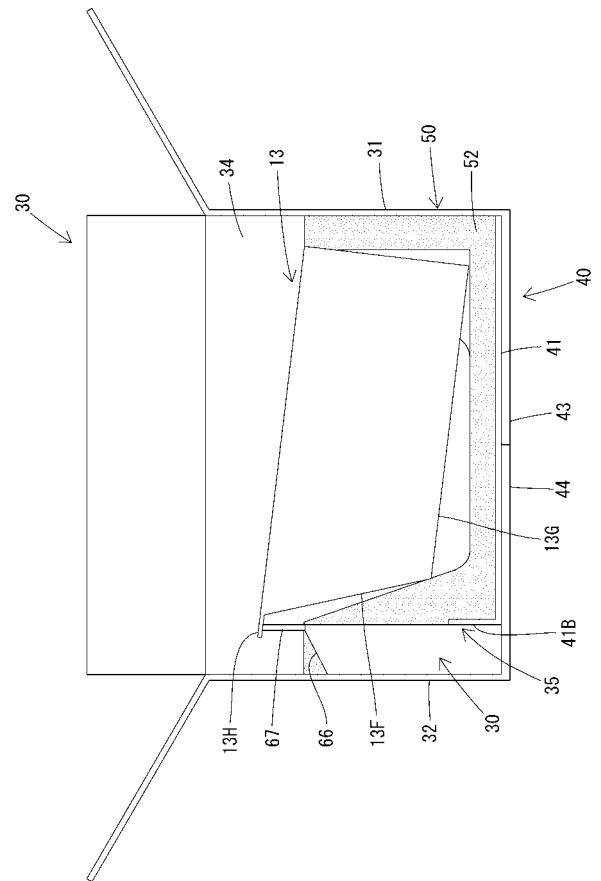
【図 9】



【図 10】



【 図 1 2 】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E060 AA03 AB05 BA03 BB02 BB03 CA01 CA12 CA23 CC07 CC17
CC18 DA30 EA16
3E066 CA01 CA04 DA01 FA04 FA06 FA13 HA01 JA03 NA12